

〔31 釈 文〕 群馬郡伊香保村借用金証文

(文政十年：一八二七)

借用申金子証文之事

一金三十拾兩也<sup>印</sup>

右金槩二請取借用申所、実正二御座候、<sup>印</sup>

此金返済之儀者、来子之七月中、元利

急度返済可<sup>レ</sup>申候、此金之儀者、拙者普請

入用諸払、并給仕下女抱候給金等二差

支、無<sup>レ</sup>抛御無心仕候間、縦令如何様之儀

出来仕候共、請人引請、急度返済可<sup>レ</sup>仕候、

右相定之通、少茂異変仕間敷候、為<sup>二</sup>後日<sup>一</sup>

借用金証文、依而如<sup>レ</sup>件

群馬郡伊香保村

借主 藤野屋弥左衛門<sup>印</sup>

同 所

文政十亥年十二月日 請人 福田屋市左衛門<sup>印</sup>

岩井村請人 次郎右衛門<sup>印</sup>

吾妻郡岩井村

平次右衛門殿

【31読み下し文】

借用申す金子（きんす）証文の事

一金三拾兩也<sup>印</sup>

右金槌（たしか）に請け取り借用申す所、実正<sup>印</sup>（じっしょう）に御座候、此の金返済の儀は、来る子の七月中、元利（がんり）急度（きつと）返済申すべく候、此の金の儀は、拙者普請（ふしん）入用諸払い、並びに給仕下女（きゆうじげじよ）抱え候給金等に差し支え、拠んどころ無く御無心仕り候間、縦令（たとい）如何様の儀出来（しゅつたい）仕り候共、請け人引き請け、急度返済仕るべく候、右相定めを通り、少しも異変（いへん）仕る間敷（まじく）候、後日の為借用金証文、依（よつ）て件（くだん）の如し

群馬郡伊香保村

借主 藤野屋弥左衛門<sup>印</sup>

同所

文政十亥年十二月日 請人 福田屋市左衛門<sup>印</sup>

岩井村請人 次郎右衛門<sup>印</sup>

吾妻郡岩井村

平次右衛門殿